



その壱～十

パパパパーン♪ パパパパーン♪
会場に鳴り響くウエディングマーチ。

メロディはよく耳にする『アレ』なのだが、どこかおかしい……

音楽のことは詳しくないんですがマイナー調って言うんですか？
音が本来のより微妙に低くて明るい感じはしなかったです（出席者談）

すっごく暗いイメージで、聞いてて不愉快でしたね（出席者談）

永遠に続くのではないかと思える長くて不快な演奏が終わり、会場内の照明が落ちた。
一瞬で闇に包まれる場内。これから何が始まるんだ？
バーンッ！
南側の扉にまばゆいばかりのスポットライトが当たる。

「旧新郎新婦の入場です」
……ってのがボソッと聞こえた。えっ！ そんな張りの無い声でいいの？

司会進行は銀縁メガネのダンディーなおじさん。
怒りで顔をひきつらせてる様子がメガネ越しにわかる。
まだ登場していない今日の主演達が入ってくるドアを睨みつけ、苦虫を噛み潰した表情をしてる。
手元の資料によると、どうやら元仲人だったらしい。道理で恨めしそうに見てるはずだ。
多分、どちらかの恩師か会社の上司だろう。だいたいそうだ。

シーン。会場内は静寂に包まれている……
カメラを構えてる人の姿もなく、笑顔さえもない。
ため息だけがたまに聞こえるが、おそらく親族だろう。
凍り付いた空間。
北極のシロクマも『今日はちょっと冷えるな』って言うくらいの冷え具合だろう。

ギィイ

両開きの扉が重そうに開いた。
扉にも感情があるのかと思うくらいの嘆きのギィイだった……

スポットライトが当たる中、二人の姿が見えた。
しかし後ろを向いていて顔は見えない。なんでだろう？
ええ！ なんと！
そのまま後ろ向きで歩いて入場してくるではないか！
一歩ずつ一歩ずつ進む道を、黒衣衣装の人がぎこちなく誘導してる。
後ろめたさで出席者の顔が見れないのだろうか？
旧新婦のドレスもどこか異様だ。
形こそよく見るウエディングドレスと同じなのだが、ここからだと思っぼく見える。
しかしスポットライトが明る過ぎて、よく見えない。
席はなんと最下座にあって、入場口の横だったのももの数秒で到着。
会場の照明がつき、初めてこちらに顔を向ける旧新郎新婦。
挨拶もそこそこに、さっさと用意されている席に座った。

たいした活躍もせず、ソデにはけていく黒衣。

漆黒の元ウエディングドレスで入場してた旧新婦。

おそらく以前着た純白のドレスに墨で色づけしたのだろう。
よく見ると、ところどころにムラがあり、墨の匂いがかすかに鼻をかすめた。
一方旧新郎はタキシード。男ってやつは代わり映えしないなあ。

反対に出席者の服装は自由すぎる。
これでもかーっと派手な服装での出席者。

「只今より旧新郎〇〇君、旧新婦〇〇さんの離婚式を行います」
司会役の元仲人さんが投げやりなアナウンスをしてる。
しかも座ったまま！
『3年2組の〇〇君至急職員室まで来て下さい』ぐらいのトーンで！
暗い、暗いよー、元仲人さんよお。

さらに重たい口調で旧新郎新婦のこれまでの経緯を話だした。
手元にある紙を棒読みです。

「以上のことから本日に至ったわけで…」
「まことにもって…」
「残念で…」
「なんでおれが…」
だんだん聞こえなくなってきたぞ。

「では儀式に移らせていただきます。旧新郎新婦、前へ」
立ち上がる二人。

「では各テーブルにありますキャンドル。これらは二人が門出と称してあの日点けた灯りであります。未来への希望でした。本日責任を持って吹き消して頂きますっ！」
力入ってるなあ、血管が浮き出てる元仲人さん。

各テーブルにはキャンドルがすでに灯っている。
旧新郎新婦は各テーブルを回ってキャンドルを吹き消していく……
テーブル中央までやや距離がある為、身を乗りだすようにしての作業。
なかなか思うように吹き消せずにいる旧新郎新婦。
仲が良かったころを思い出したのかここで少しじゃれあう。

あなた早く消しなさいよ。
おまえこそもっと強く吹けよ。

ろうそくボウボウ旧新郎フウフウ。
ろうそくボウボウ旧新婦フウフウ。

客席シーン。

所用時間三十二分。
汗だくで終了。

なんでこんなに出席者が多いんだ！
あなたが呼んだんじゃないの？
再びじゃれあう二人だった。

「えーここで旧新婦、一回目のお色直しに入ります」
お色直し？ なにそれ？
思わず司会者の方を見たよ。
元仲人さん、片ひじついてしゃべってた！
ついでに世話係の人口説いてたー！

旧新婦、一旦退場なのだが出口が近い為もういなくなっていた。

早く脱ぎたいもんね、墨臭いし……
悲しいなお色壊し。

「出席者の皆様にはお料理を用意しております。バイキング形式になっておりますので今のうちに思う存分召し上がってください。旧新郎新婦達の自腹です。以上、解散！」
世話係の人とカラオケに行く約束をしてる！ マイクがオンになってて丸聞こえだ。
これこれ……終わるまでちゃんと司会して下さい。

しばらく談笑が続く。
ポツンと残された旧新郎。暗いオーラが漂って、誰も近づかない出席者たち。

旧新婦グレーのワンピースで再登場。
なんかモコモコしてる。紹介も演出もなく自分で扉を閉めてこそそと元の席へ。
あれ？ いつの間にか扉係の人、居なくなってた。

旧新婦が席に着席しても、一向に始まらないぞ。
会場がざわつく。
また司会者の方思わず見た。そしたら盛り上がってた！ 扉の係の人もそこに居てたー！
ゴホンと旧新郎が咳払い。
散って行く係の人達。

「はいはい……ここからは少しばかり余興をと……要らないと思うんですけどねっ」
本音を織り交ぜてきた司会の元仲人！

例によってカラオケセットが登場。
『もう、終わりだね』
『サヨナラ サヨナラ サヨナラァアアア～』
歌うは別れの曲オンリー。
ここぞとばかりに熱唱熱唱大熱唱の出席者達。
みなさんずっと我慢してたみたい。お前ら簡単に別れやがってって言いたかったのね。
そんな空気を歌に込めての熱唱でした。

「えー、旧新婦が本日二度目のお色壊しです。早速やっちゃってください」
旧新婦、その場でワンピースを脱ぎだした！
下にティーシャツと短パンはいてたー！

横の旧新郎もタキシードの下に着込んでいた、ジャージ姿になったのでした。
(あんまり旧新郎のこと見てなかったんで、描写が雑です。すいません)

「時間もおして参りましたので……と言っても、もう間に合いませんが！ わたし今日、娘の運動会やったんですよ……年に一回の楽しみ。今日に日の為に、毎日走りこんできたというのに。借り物競争ちゅーのにエントリーしてたんですけどパーですわ…
…こいつらが早く別れたいって言うもんだから……」
うう、号泣してる。
「すいません。愚痴っちゃいまして……えー、最後の共同作業『エンディングケーキ埋め』に移ります」

一部分が欠けたケーキのタワーが運び込まれる。
その横には練りたてコンクリートを連想する、盛られたホイップが！
少し大きめのパテ？ のようなものを二人で持って、黙々とエンディングケーキを埋めていくのでありました。

これがなかなか楽しいみたいで、キャッキヤ言いながらやってましたよ。
旧新郎は神経質なのか、角の仕上がりが気に入らないと、何度も微調整をしてました。
綺麗に仕上がっても二人に仲はもどりませんよ……

作り立てのケーキは黒衣が運んで行った。(どうするんだろ、これ……)

お互いの左手薬指にはめていた結婚指輪を抜き合う二人。
さっきケーキを持って出て行った黒衣がポリバケツを持って帰ってきた。
蓋を開け、指輪を捨てる二人。ポトっという音が響く。
向き合う二人……間違いなく世界は二人のために存在していた。
出会ったあの日からこの瞬間まで。幾重の思いを胸にして、見つめ合うのだった……

ささっと黒衣が近づき、テーブルになにやら置いていった。
二人はテーブルの上の筆を取り、墨をつける。そして、おでこに×印を書き合うのであった！
ウエディングドレスを染めたり、おでこに×印を書いたり、今日は墨の意外な使い道を発見したなあ。

「これで二人はアカの他人に戻りました。新たな決意を胸に、これから進んでいくことでしょう。本日はまことに……」
旧新婦が司会席に近づきなにやら耳うちしてる。

「もうひとつやりたいことがあると旧新婦から申し出がありまして……」

数名の人が名前を呼ばれて、旧新婦の周りに集まって来た。

旧新婦がブーケを手にして笑ってる。ブーケトスをするつもりなのか？

縁起でもないブーケがクルクルと宙を舞う。避ける出席者達……

フローリングの床には見るも無惨なブーケがポトリ。旧新婦が『ちえっ』と舌打ちしてるのを見てしまった。

「では旧新郎新婦、こちらへ」

普通ならここで両親へ花束を贈るのだが……

なにやら台車がでてきたぞ。ええ！ そこに乗るの！

旧新郎新婦が荷物運搬用の台車に乗せられて、それぞれの父親達が台車を引っ張ってゴンドラの前まで運んだ。

二人は複雑な顔をして上っていきました……

ふう。終わったみたいだ……

旧新婦のドレスのすそをもったり、墨用意したり、落ちたブーケの片付けをしたりしたけど、

このバイトは今日で辞めようと思います。

一日体験して思った事は『新たな一步を踏み出す勇気』または『踏み出さない勇気』

そのどちらにも『次へ繋がる道がある』ということです。

別れるという事が大袈裟なイベントになれば、思いとどまる人達が増えるかも知れない。

または思いっきりイベントをすれば、すっきり別れられるかも知れないなあ。

帰りに余った『押しで物』なるものをいただきました。

中身は辛子明太子でした……

『人生そんなに甘くはないぞ』ってメッセージが聞こえたような気がしました。